

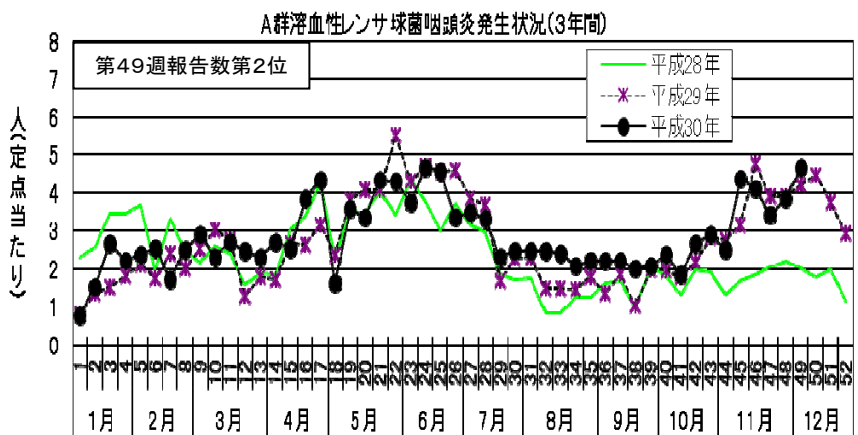
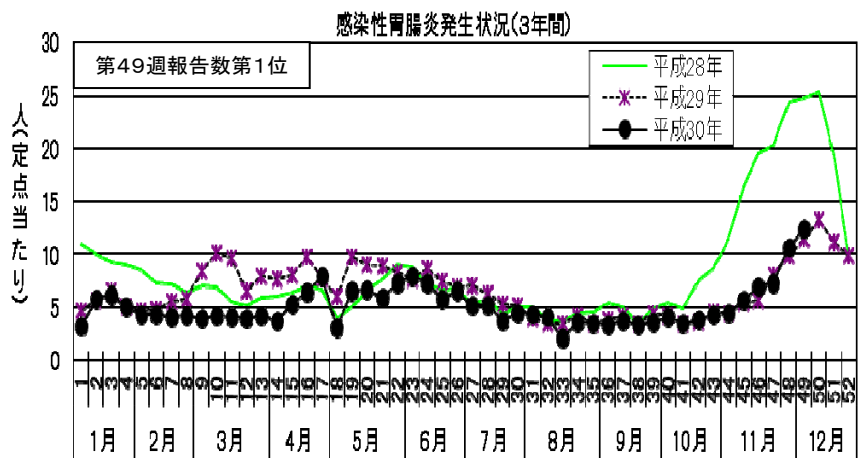
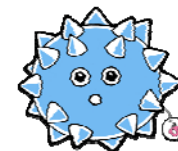
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年12月3日（月）～平成30年12月9日（日）〔平成30年第49週〕の感染症発生状況

第49週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は12.41人と前週（10.65人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.68人と前週（3.86人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.67人と前週（1.33人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

★ノロウイルス★
ノロロンくん



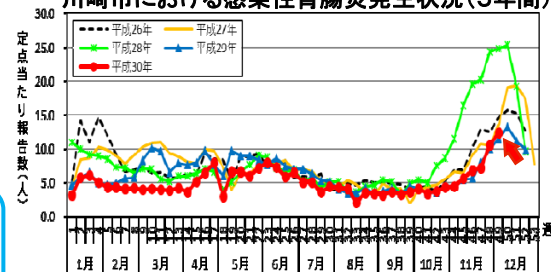
感染性胃腸炎～高津区、多摩区を中心に流行がみられています！～

感染性胃腸炎の原因はウイルスや細菌など様々ですが、特に冬季はノロウイルスを原因とする胃腸炎の患者報告数がピークを迎えます。

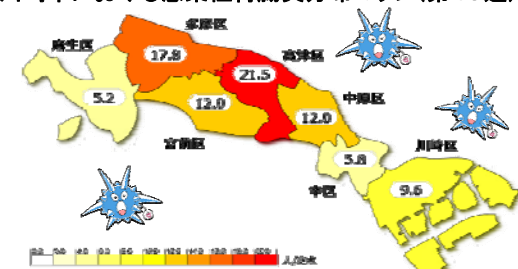
川崎市においては、第48週（平成30年11月26日～12月2日）以降報告数が増加し、第49週（平成30年12月3日～12月9日）の定点当たり報告数は12.41人となりました。特に、高津区、多摩区からの報告が多くなっています。

ノロウイルス感染者のふん便や吐物には多数のウイルスが含まれ、乾いてほこりとともに舞い上がることもあります。適切に処理し、手洗いを徹底しましょう。

川崎市における感染性胃腸炎発生状況(5年間)



川崎市における感染性胃腸炎分布マップ(第49週)



川崎市感染症情報発信システム(KIDSS)

ノロウイルスを原因とする感染性胃腸炎について

【感染経路】

主に経口感染

【潜伏期間】

1～2日間

【主な症状】

吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、発熱（軽度）など

【治療方法】

特異的な治療方法はなく、対症療法が中心

※特に乳幼児や高齢者は、嘔吐や下痢による脱水や体力の消耗を防ぐため、水分と栄養の補給を充分に行いましょう。

